

## 電子顕微鏡による研究業績集

1995年(平成7年)

## 生物学研究室

## 論文発表

形状記憶インプラントの加温開脚に関する研究(第1報) 温度表示器の開発: 築瀬武史, 佐々木光男, 吉田 豊, 大塚義次, 重浦英正, 入江靖雄(口腔インプラント生涯研修センター), 吉沢英樹, 川原一祐(松本歯大・生物). 日口腔インプラント誌, 8(2): 126-131, 1995.

## 学会発表

骨補填材(BONEJECT<sup>®</sup>) 填塞部の骨形成: 吉沢英樹, 川原一祐(松本歯大・生物), 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 抄録集: 91, 1995. 日本口腔インプラント学会総会(第25回)平成7年7月.

チタン粒子蒸着インプラントとハイドロキシアパタイトを被覆したインプラントと骨の界面構造について: 鈴木和夫, 磯部晴彦(松本歯大・口腔解剖II), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料), 吉沢英樹(松本歯大・生物). 抄録集: 88, 1995. 日本口腔インプラント学会総会(第25回)平成7年7月.

暑熱による生体影響の病理細胞学的研究: 川原一祐(松本歯大・生物), 浅沼信治, 臼田 誠, 松島松翠(日本農村医研). 地球環境研究総合推進費シンポジウム, 平成7年9月.

1 回法インプラントの周囲骨欠損に応用したGBR法の検討: 吉沢英樹(松本歯大・生物), 横井宏隆(口腔インプラント生涯研修センター), 川原一祐(松本歯大・生物). 抄録集: 42, 1995. 日本口腔インプラント学会関東甲信越支部総会(第15回)平成7年9月.

Biosynthesis of sulfoglycolipids in isolated renal tubules from rat: Nagai, K., Aritomi, K.,

Tanaka, N. (Dept. of Biochem., Teikyo Univ. Schl. Med.), Yoshizawa, H. (Dept. of Biol., Matsumoto Dent. Coll.) and Ishizuka, I. (Dept. of Biochem., Teikyo Univ. Schl. Med.). Proceedings of the sixty-sixth annual meeting of the Zoological Society of Japan, September, 1995.

農薬の相乗作用による生体影響について(第2報): 臼田 誠, 浅沼信治, 松島松翠(日本農村医研), 安藤 満, 山元昭二(国立環境研), 川原一祐(松本歯大・生物). 日農医誌, 44(3): 312, 1995. 日本農村医学会学術総会(第44回)平成7年9月.

ブレードインプラントにおけるGBR法併用例: 角田和芳(近江スミダ歯科医院), 横井宏隆(口腔インプラント生涯研修センター), 吉沢英樹, 川原一祐(松本歯大・生物), 福与碩夫(口腔インプラント生涯研修センター). 日本口腔インプラント学会近畿・北陸支部総会(第15回)平成7年11月.

## 口腔解剖学第II講座

## 著書

新口腔組織学図譜(分担執筆): 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). わかば出版(東京)1995.

## 論文発表

Use of chronological lead-labeling technique for the quantitative study of bone formation in the alveolar wall of the rat molar: Ashizawa, Y., Matsuda, Y., Okafuji, N., Toyoki, A., Nishimoto, M. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). 歯科基礎医学会雑誌, 37(4): 306-313, 1995.

## 学会発表

歯の吸収と炎症性サイトカインについて: 佐原紀行(松本歯大・口腔解剖II), 大原健一, 高橋和人(神奈川歯大・口腔解剖), 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 解剖誌, 70(Supplement): S95, 1995. 日本解剖学会総会(第100回)平成7年4月.

形状記憶インプラントの組織学的研究：鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. Academy of Oral Implantology, Republic of China, 平成7年4月.

エナメル質吸収に関する組織細胞学的知見：佐原紀行（松本歯大・口腔解剖II），大原健一，高橋和人（神奈川歯大・口腔解剖），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. 抄録集：7, 1995. 日本解剖学会関東地方会第5回懇話会，平成7年6月.

実験的歯の移動に伴う歯槽骨の改造過程—走査電顕による観察—：岡藤範正，芦澤雄二，豊城あずさ，中村康洋，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），佐原紀行，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. 松本歯学, 21(2)：259—260, 1995. 松本歯学会総会（第40回）平成7年6月.

ラット臼歯歯根膜内に存在する食能を有する細胞について：中村康洋，芦澤雄二，出口敏雄（松本歯大・歯科矯正），佐原紀行，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. 松本歯学, 21(2)：260—261, 1995. 松本歯学会総会（第40回）平成7年6月.

A comparative investigation of the clinical and histopathological findings of endosteal implants: Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). World Congress International Research Committee of Oral Implantology, June, 1995.

チタン粒子蒸着インプラント体にHAPを溶射したインプラント体の界面構造について：鈴木和夫，磯部晴彦（松本歯大・口腔解剖II），伊藤充雄（松本歯大・総合歯研・生体材料），吉沢英樹（松本歯大・生物）. インプラント誌（抄録集）：88, 1995. 日本口腔インプラント学会総会（第25回）平成7年7月.

骨補填材（BONEJECT®）填塞部の骨形成：吉沢英樹，川原一祐（松本歯大・生物），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. インプラント誌（抄録集）：91, 1995. 日本口腔インプラント学会総会（第25回）平成7年7月.

歯根型形状記憶インプラント P. R. I. 周囲骨の組織学的検討：麻野和宏，杉田 基，丹羽 健，横井宏隆，中里博泰，副与碩夫（口腔インプラント生涯研修センター），鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II）. インプラント誌（抄録集）：87, 1995. 日本口腔インプラント学会総会（第25回）平成7年7月.

チタン粒子蒸着インプラントとハイドロキシアパタイトを被覆したインプラントと骨の界面構造について：鈴木和夫，磯部晴彦（松本歯大・口腔解剖II），伊藤充雄（松本歯大・総合歯研・生体材料），吉沢英樹（松本歯大・生物）. 抄録集：88, 1995. 日本口腔インプラント学会総会（第25回）平成7年7月.

A histochemical study of the bone remodeling sequence after tooth movement: Okafuji, N., Toyoki, A., Ashizawa, Y. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). International Association for Dental Research, 73rd General Session and Exhibition, July, 1995.

Quantitative evaluation of newly formed bone in the tension side after tooth movement: Ashizawa, Y., Okafuji, N., Toyoki, A. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). International Association for Dental Research, 73rd General Session and Exhibition, July, 1995.

咬合圧除去に伴う骨改造現象について（第2報）：大原健一（神奈川歯大・口腔解剖），佐原紀行，鈴木和夫（松本歯大・口腔解剖II），高橋和人（神奈川歯大・口腔解剖）. 歯基礎誌, 37(抄録集)：127, 1995. 歯科基礎医学会総会（第37回）平成7年9月.

Histochemical study of cytodifferentiation of the

odontoclast in the shedding of human deciduous teeth: Sahara, N. and Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.). 日本組織細胞化学会総会 (第36回) 平成7年9月。

チタン粒子と HAP 被覆インプラントの界面構造について: 磯部晴彦, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II), 伊藤充雄 (松本歯大・総合歯研・生体材料). 口腔インプラント学会 (第15回) 関東甲信越支部総会, 平成7年9月。

実験的歯の移動に伴う歯槽骨の改造過程—走査電顕による観察—: 岡藤範正, 芦澤雄二, 豊城あずさ, 中村康洋, 出口敏雄 (松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II). 日本矯正歯科学会大会 (第54回) 平成7年10月。

ラット臼歯歯根膜内のマクロファージの動態について: 中村康洋, 芦澤雄二, 岡藤範正, 出口敏雄 (松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II). 日本矯正歯科学会大会 (第54回) 平成7年10月。

咬合圧除去による歯槽骨改造の変化: 大原健一, 高橋和人 (神奈川歯大・口腔解剖), 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II). 松本歯学会例会 (第41回) 平成7年11月。

ラット歯槽骨の Modeling と Remodeling について: 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II), 大原健一, 高橋和人 (神奈川歯大・口腔解剖). 松本歯学会例会 (第41回) 平成7年11年。

ヒトの歯の吸収とその修復: 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II). 日本歯科医師会雑誌, 48(5): 136, 1995. 日本歯科医学会総会 (第18回) 平成7年11月。

歯槽骨改造の経時的組織変化について: 大原健一, 高橋和人 (神奈川歯大・口腔解剖), 佐原紀行, 鈴木和夫 (松本歯大・口腔解剖II). 神奈川歯科大学学会, 平成7年12月。

## 口腔生理学講座

### 論文発表

Cytochemical localization of guanylyl cyclase activity in rabbit taste bud cells: Asanuma, N. and Nomura, H. (Dept. of Oral Physiol., Matsumoto Dent. Coll.). Chem. Senses, 20(2): 231—237, 1995.

ウサギ葉状乳頭味蕾におけるグアニル酸シクラーゼ (サイクリック GMP 生成酵素) 活性の局在を細胞化学的手段を用いて調べた。活性は味蕾細胞先端部に限局して認められ, I 型細胞の微絨毛膜は特に強い活性を示した。II 型細胞の酵素活性は弱かった。味蕾細胞の先端は味刺激が細胞と反応する部位と考えられており, 味覚情報変換にサイクリック GMP が関与している可能性がある。

### 学会発表

ウサギ味蕾細胞グアニル酸シクラーゼ活性の酵素細胞化学: 浅沼直和, 野村浩道 (松本歯大・口腔生理). 松本歯学, 21(2): 261, 1995. 松本歯学会総会 (第40回) 平成7年6月。

ウサギ味蕾細胞におけるグアニル酸シクラーゼ活性の局在 (酵素細胞化学的研究): 浅沼直和, 野村浩道 (松本歯大・口腔生理). 歯基礎誌, 37(補冊): 207, 1995. 歯科基礎医学会総会 (第37回) 平成7年9月。

## 口腔病理学講座

### 学会発表

カルシウム塩の沈着と褐色色素を伴うアスペルギルス症の病理組織学的検索: 武井則之, 金谷昌幸, 川上敏行, 枝重夫 (松本歯大・口腔病理), 岩井健治, 小松史 (松本歯大・口腔外科I). 松本歯学, 21(2): 248—249, 1995. 松本歯学会総会 (第40回) 平成7年6月。

カルシウム塩の結晶と褐色色素を伴うアスペルギルス症の1症例を経験した。症例は37歳女性で, 1995年1月, 術後性上顎嚢胞の臨床診断のもと, 嚢胞摘出術を施行された。嚢胞腔中の塊状物は無構造な壊死組織で, そこには円筒形の中隔を有する菌糸が種々の方向へ伸長していた。また, 透明なカルシウ

ム塩と思われる結晶も散在していた。これらの結晶をEDSによって分析したところSとCaに高い値が認められたもののPは検出されなかったことより、沈着したカルシウム塩は文献的に尿酸カルシウム結晶と考えられた。

Crystals closing tubules in sclerosed root dentin of the aged: Eda, S., Hasegawa, H., Kawakami, T. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.). The international conference, Dentin/Pulp Complex 1995, program and abstracts of papers: 96, 1995. The International Conference on Dentin/Pulp Complex, 1995. Chiba. July, 1995.

高齢者の歯牙における歯根部の象牙質は、一般に光学的に透明化していることが知られている。この増齢の変化について電子顕微鏡的に検索を加えた。その結果、象牙細管内には例外なしに微細顆粒状ないし砂状の結晶が緊密に沈着することにより、光学的に透明化することが明らかになった。また、超薄切片を弱酸で短時間脱灰することにより、管周基質は溶解消失するが、細管内沈着物はなお残存していたことから、この二者を明確に区別することができた。

Crystals closing tubules in secrosed coronal dentin of the aged: Kawakami, T., Takei, T. and Eda, S. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.). The international conference, Dentin/Pulp Complex 1995, program and abstracts of papers: 97, 1995. The International Conference on Dentin/Pulp Complex, 1995. Chiba. July, 1995.

歯牙は年齢の増加と共に、歯冠部においては実質欠損すなわち、咬耗が高度になる。すなわち、歯冠部の咬耗や磨耗を起こした象牙質は一般に不透明になることが知られているが、一部では透明の部もある。この違いについて電顕的に検討を加えた。その結果、象牙細管内に菱面体、立方体、角柱形あるいは針状などの比較的大型の結晶が粗に配列した場が多く認められ、これらの場合には光学的に不透明になること、また微細な顆粒状結晶が密に沈着した場合もわずかに観察され、この場合には光学的に透明になることが判明した。

菌球内に微小なカルシウム塩の沈着と褐色色素を伴ったアスペルギルス症の病理組織学的検索：武井則之，金谷昌幸，川上敏行，枝重夫（松本歯大・口腔病理）。日口病学会抄録集（第6回）：3，1995。日本口腔病理学会総会（第6回）平成7年8月。

カルシウム塩の結晶と褐色色素を伴うアスペルギルス症の1症例を経験した。症例は37歳女性で、1995年1月、術後性上顎嚢胞の臨床診断のもと、嚢胞摘出術を施行された。嚢胞腔中の塊状物は無構造な壊死組織で、そこには円筒形の中隔を有する菌糸が種々の方向へ伸長していた。また、透明なカルシウム塩と思われる結晶も散在していた。これらの結晶をEDSによって分析したところSとCaに高い値が認められたもののPは検出されなかったことより、沈着したカルシウム塩は文献的に尿酸カルシウム結晶と考えられた。

Histopathological study of aspergillosis accompanied with calcified materials: Eda, S., Takei, N., Kanatani, M. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.), Chino, T. (Dept. of Oral and Maxillofac. Surg. I, Matsumoto Dent. Coll.) and Kawakami, T. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.). The Second Asia Pacific Workshop for Oral Mucosal Lesions (2nd) November, 1995 (チェンマイ, タイ)。

カルシウム塩の結晶と褐色色素を伴うアスペルギルス症の1症例を経験した。症例は37歳女性で、1995年1月、術後性上顎嚢胞の臨床診断のもと、嚢胞摘出術を施行された。嚢胞腔中の塊状物は無構造な壊死組織で、そこには円筒形の中隔を有する菌糸が種々の方向へ伸長していた。また、透明なカルシウム塩と思われる結晶も散在していた。これらの結晶をEDSによって分析したところSとCaに高い値が認められたもののPは検出されなかったことより、沈着したカルシウム塩は文献的に尿酸カルシウム結晶と考えられた。

#### 歯科理工学講座

##### 学会発表

ガリウム合金の耐食性について：洞沢功子，高橋

重雄(松本歯大・歯科理工). 日本歯科理工学会(第26回)平成7年9月(仙台).

臼歯修復用ガリウム合金, ガリウムアロイ GF とその改良型 GF II の耐食性について, 浸漬試験, サイクリックポルタメトリ, 合金表面の SEM 観察と面分析を行ない検討した. その結果ガリウム合金の腐食は早期には Ga の溶出が生じ, 長期的には Sn, In の溶出も生ずることがわかった.

#### 歯科補綴学第 I 講座

##### 論文発表

金属粉末射出成形により製作したチタン焼結体について: 山岸利夫(松本歯大・総合歯研・生体材料), 孔 泰寛(松本歯大・歯科矯正), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料), 小幡明彦, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 林 春二, 五十嵐順正(松本歯大・歯科補綴 I). 歯科材料・器械, 14(4): 399—405, 1995.

#### 口腔外科学第 I 講座

##### 論文発表

Report of a case-histopathological and mechanical investigation of removed HAP-coated dental implant (sumicikon<sup>®</sup>): Ueda, A., Gotoh, K. (Dept. of Oral and Maxillofac. Surg. I, Matsumoto Dent. Coll.), Itoh, M. (Inst. for Dent. Sci., Dept. of Biomaterials., Matsumoto Dent. Coll.) and Chino, T. (Dept. of Oral and Maxillofac. Surg. I, Matsumoto Dent. Coll.). Proceedings of the 3rd World Congress for Oral Implantology, 372—373, 1995.

##### 学会発表

カルシウム塩の沈着と褐色色素を伴うアスペルギルス症の病理組織学的検索: 武井則之, 金谷昌幸, 川上敏行, 枝 重夫(松本歯大・口腔病理), 岩井健治, 小松 史(松本歯大・口腔外科 I), 松本歯学, 21(2): 248—249, 1995. 松本歯学会総会(第40回)平成7年6月.

Histopathological study of aspergillosis accompanied with calcified materials: Eda, S.,

Takei, N., Kanatani, M. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.), Chino, T. (Dept. of Oral and Maxillofac. Surg. I, Matsumoto Dent. Coll.) and Kawakami, T. (Dept. of Oral Pathol., Matsumoto Dent. Coll.). The Second Asia Pacific Workshop for Oral Mucosal Lesions (2nd) November, 1995 (チェンマイ, タイ).

#### 歯科矯正学講座

##### 論文発表

実験的歯の移動に伴う歯槽骨改造過程一走査型電子顕微鏡による観察—: 岡藤範正(松本歯大・歯科矯正). 日矯歯誌, 54(5): 296—310, 1995.

金属粉末射出成形により製作したチタン焼結体について: 山岸利夫(松本歯大・総合歯研・生体材料), 孔 泰寛(松本歯大・歯科矯正), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料), 小幡明彦, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 林 春二, 五十嵐順正(松本歯大・歯科補綴 I). 歯科材料・器械, 14(4): 399—405, 1995.

生体材料に関する研究(その9)キトサンフィルムの引張強さと浸漬期間の関係について: 伊藤充雄, 竹内勝泉(松本歯大・総合歯研・生体材料), 孔 泰寛(松本歯大・歯科矯正), 森 厚二, 横山宏太, 五十嵐俊男, 山岸利夫(松本歯大・総合歯研・生体材料). 歯科材料・器械, 14(5): 492—498, 1995.

Use of a chronological lead-labeling technique for the quantitative study of bone formation in the alveolar wall of the rat molar: Ashizawa, Y., Matsuda, Y., Okafuji, N., Toyoki, A., Nishimoto, M. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). 歯科基礎医学会雑誌, 37(4): 306—313, 1995.

##### 学会発表

チタン粉末射出成形法による焼結体の歯科への応用について: 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総

合歯研・生体材料), 小幡明彦(松本歯大・歯科矯正). 歯科チタン研究会(第8回)平成7年1月.

抗菌剤を添加したポリウレタン製弾性材料の物性について: 宮崎顕道, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料). 日本歯科理工学会(第25回)平成7年4月.

ラット臼歯歯根膜内に存在する食能を有する細胞について: 中村康洋, 芦澤雄二, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 松本歯学, 21(2): 260—261, 1995. 松本歯学会総会(第40回)平成7年6月.

実験的歯の移動に伴う歯槽骨の改造過程—走査電顕による観察—: 岡藤範正, 芦澤雄二, 豊城あずさ, 中村康洋, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 松本歯学, 21(2): 259—260, 1995. 松本歯学会総会(第40回)平成7年6月.

A histochemical study of the bone remodeling sequence after tooth movement: Okafuji, N., Toyoki, A., Ashizawa, Y. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). International Association for Dental Research, 73rd General Session and Exhibition, July, 1995.

Quantitative evaluation of newly formed bone in the tension side after tooth movement: Ashizawa, Y., Okafuji, N., Toyoki, A. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.), Sahara, N., Suzuki, K. (Dept. of Oral Histol., Matsumoto Dent. Coll.) and Deguchi, T. (Dept. of Orthod., Matsumoto Dent. Coll.). International Association for Dental Research, 73rd General Session and Exhibition, July, 1995.

抗菌剤を添加したポリウレタン製弾性材料の物性について(第2報)各種抗菌剤の比較: 宮崎顕道,

小幡明彦, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料). 日本歯科理工学会学術講演会(第26回)平成7年9月.

実験的歯の移動に伴う歯槽骨の改造過程—走査電顕による観察—: 岡藤範正, 芦澤雄二, 豊城あずさ, 中村康洋, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 日本矯正歯科学会大会(第54回)平成7年10月.

ラット臼歯歯根膜内のマクロファージの動態について: 中村康洋, 芦澤雄二, 岡藤範正, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 佐原紀行, 鈴木和夫(松本歯大・口腔解剖II). 日本矯正歯科学会大会(第54回)平成7年10月.

#### 総合歯科医学研究所 生体材料開発部門

#### 論文発表

生体材料に関する研究(その7)乾燥したキトサンフィルム機械的性質について: 伊藤充雄, 新納 亨, 森 厚二, 横山宏太, 竹内勝泉, 中山優子, 山岸利夫(松本歯大・総合歯研・生体材料). 歯科材料・器械, 14(2): 175—180, 1995.

レーザー溶接したチタン鋳造体の疲労特性について: 山岸利夫, 竹内勝泉, 森 厚二, 横山宏太, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料). 松本歯学, 21(2): 131—136, 1995.

チタン溶接したチタンの浸漬溶液中における機械的性質の経時的変化と溶出について: 山岸利夫, 竹内勝泉, 森 厚二, 横山宏太, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料). 松本歯学, 21(2): 137—147, 1995.

金属粉末射出成形により製作したチタン焼結体について: 山岸利夫(松本歯大・総合歯研・生体材料), 孔 康寛(松本歯大・歯科矯正), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料), 小幡明彦, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正), 林 春二, 五十嵐順正(松本歯大・歯科補綴I). 歯科材料・器械,

14(4): 399—405, 1995.

生体材料に関する研究(その9) キトサンフィルム  
の引張強さと浸漬期間の関係について: 伊藤充雄,  
竹内勝泉(松本歯大・総合歯研・生体材料),  
孔 泰寛(松本歯大・歯科矯正), 森 厚二, 横山  
宏太, 五十嵐俊男, 山岸利夫(松本歯大・総合歯  
研・生体材料). 歯科材料・器械, 14(5): 492—498,  
1995.

生体材料に関する研究(その10) キトサンを溶解  
する有機酸に対する各種アパタイトの溶出: 森  
厚二, 横山宏太, 山倉和典, 中島三晴, 新納 亨,  
五十嵐俊男, 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総  
合歯研・生体材料). 松本歯学, 21: 301—311, 1995.

アパタイト含有キトサンフィルムの諸性質につ  
いて: 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料).  
松本歯学, 21: 269—279, 1995.

Report of a case-histopathological and mechan-  
ical investigation of removed HAP-coated  
dental implant (sumicikon®): Ueda, A., Gotoh,  
K. (Dept. of Oral and Maxillofac. Surg. I,  
Matsumoto Dent. Coll.), Itoh, M. (Inst. for Dent.  
Sci., Dept. of Biomaterials., Matsumoto Dent.  
Coll.) and Chino, T. (Dept. of Oral and Maxillo-  
fac. Surg. I, Matsumoto Dent. Coll.). Proceed-  
ings of the 3rd World Congress for Oral  
Implantology, 372—373, 1995.

#### 学会発表

チタン粉末射出成形法による焼結体の歯科への応  
用について: 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総  
合歯研・生体材料), 小幡明彦(松本歯大・歯科矯  
正). 歯科チタン研究会(第8回)平成7年1月.

生体材料に関する研究(その8) キトサンフィル  
ムの機械的性質とキトサン含有量の関係: 伊藤充  
雄, 竹内勝泉, 新納 亨, 森 厚二, 横山宏太,  
五十嵐俊男, 中山優子, 山岸利夫(松本歯大・総  
合歯研・生体材料). 日本歯科理工学会(第25回)

平成7年4月.

抗菌剤を添加したポリウレタン製弾性材料の物性  
について: 宮崎顕道, 出口敏雄(松本歯大・歯科  
矯正), 山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・  
生体材料). 日本歯科理工学会(第25回)平成7年  
4月.

チタン粒子蒸着インプラント体に HAP を溶射し  
たインプラント体の界面構造について: 鈴木和  
夫, 磯部晴彦(松本歯大・口腔解剖II), 伊藤充雄  
(松本歯大・総合歯研・生体材料), 吉沢英樹(松  
本歯大・生物). インプラント誌(抄録集): 88,  
1995. 日本口腔インプラント学会総会(第25回)  
平成7年7月.

チタン粒子蒸着インプラントとハイドロキシアパ  
タイトを被覆したインプラントと骨の界面構造に  
ついて: 鈴木和夫, 磯部晴彦(松本歯大・口腔解  
剖II), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材料),  
吉沢英樹(松本歯大・生物). 抄録集: 88, 1995.  
日本口腔インプラント学会総会(第25回)平成7  
年7月.

生体材料に関する研究(その10) キトサンを溶解  
する有機酸に対するアパタイトの溶出について:  
伊藤充雄, 竹内勝泉, 新納 亨, 森 厚二, 横山  
宏太, 五十嵐俊男, 山岸利夫(松本歯大・総合歯  
研・生体材料). 日本歯科理工学会(第26回)平成  
7年9月.

抗菌剤を添加したポリウレタリン製弾性材料の物  
性について(第2報) 各種抗菌剤の比較: 宮崎顕  
道, 小幡明彦, 出口敏雄(松本歯大・歯科矯正),  
山岸利夫, 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生  
体材料). 日本歯科理工学会(第26回)平成7年9月.

チタン粒子と HAP 被覆インプラントの界面構造  
について: 磯部晴彦, 鈴木和夫(松本歯大・口腔  
解剖II), 伊藤充雄(松本歯大・総合歯研・生体材  
料). 口腔インプラント学会(第15回)関東甲信越  
支部総会, 平成7年9月.